

## I 新たなステージへの挑戦

### ○フェーズシフト

新時代 IT ビジネス研究会が発足から丸3年が経過。

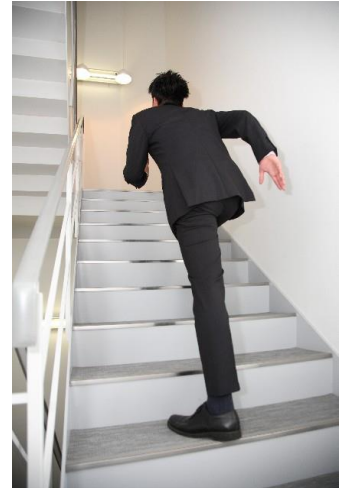
他地域、他産業との交流プラットフォームであるコミュニティ形成を目標に活動し、それまでの県事業の流れを組む部会活動を中心に、地域課題解決を目的としたハッカソンなど新たな試みを取り入れながら、着実に IT ビジネスが生まれる基盤づくりを進めてきました。

その結果、青森県が IT 業界においては全国からも注目される存在となるなど、活動の成果が表れてきたところです。

しかしながら、「新商品、新事業への挑戦は出てきたが、成功事例が少ない」「個別の提案は増えてきたが、企業・団体間の連携が不十分」といった課題も見えてきました。

そこで、昨年度からは、基盤作りのフェーズからビジネスを生むフェーズへとシフトできるよう、「協業」をテーマに活動しています。

階段を上るように、着実に上を目指して今後とも精進していきます。



### ○なぜテーマが「協業」？

これまでは、研究会活動は県が主体となり進めてきました。

しかし、研究会活動をしていく中で、これまで県とは関わりがなかった人・企業とのつながりが大幅に広がりました。そして、素晴らしいスキルを持っている人がたくさんいることもわかり、そのような人たちにこそ、これからの青森県の IT 産業をけん引してもらいたいと思いました。

そのためには、まず、県と一緒にコミュニティを運営してもらうことが必要と考え、「協業」という考えにたどり着きました。



また、企業単独ではなく、関連企業がタッグを組んで、さらに上を目指してもらいたいという思いもあります。

ここでいう「協業」は「官と民」だけではなく「民と民」も推進していきたいと考えています。

## II 協業の実現に向けて

### ○新時代 IT ビジネス研究会も協業

これまでは、民間からヒントをもらいつつも、基本的には行政がイベントを企画し、民間に参加してもらうスタイルでした。

昨年からは実施体制を一新し、これまで県事業に関わっていただいた人を中心に実行委員会を結成。総会をはじめとする各種事業を、関係者全員で考える「協業」スタイルで進めています。

なかでも研究会事業のひとつ「IT ビジネス道場」は、基本的に実施内容は各分野の民間の担当者が企画し、県は運営の手伝いをするという、これまでとは完全に異なるスタンスでの事業実施。より、実効性の高い事業となっています。

今後は、県が主体ではなく、民間企業がコミュニティを活用し、さらなる産業発展を遂げられるよう、バックアップしていきます。

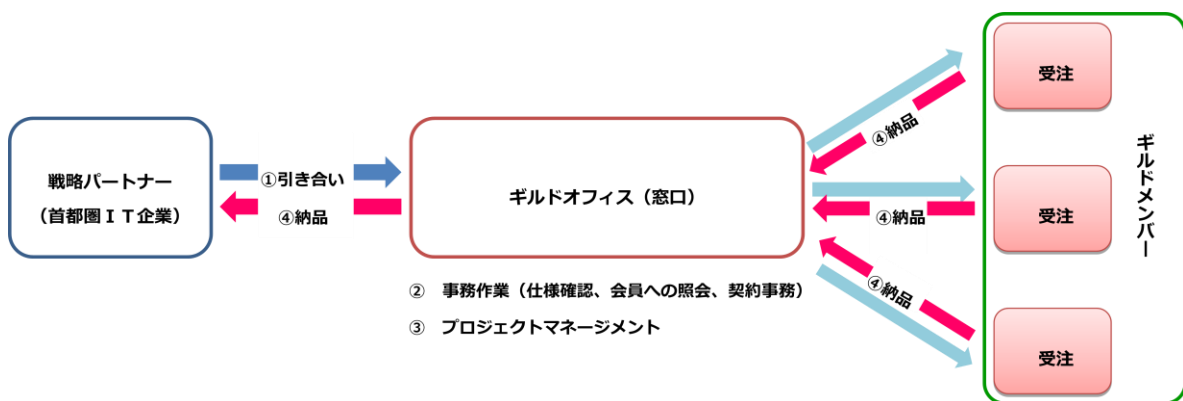
## ○ギルドモデル

そのような中、首都圏の IT 企業の方とお話をすると、仕事を発注したいのだが総合的にお願いしたいというリクエストが多く、特定の技術に長けている企業・人には頼みづらいという話がありました。このことは技術力がビジネスにつながっていない、受注機会を損失しているともいえるでしょう。

そこで、ギルドオフィスが窓口となって仕事を受注し、ギルドメンバーが得意とする分野ごとに仕事をこなし、最終的には一つの納品物として納める。ありそうで実現してこなかったことを、モデル事業として実施することにしました。

単純に県内での仕事が増えるということだけではなく、首都圏からの仕事を受注することで、最先端の技術を学ぶ機会になるなど、技術レベルの底上げにつながったり、これまで付き合いのなかった企業とのつながりが生まれたり、様々な効果を期待しています。

最終的には、自分たちが考えたプロジェクトを県内企業がチームを組んで実現していくことが当たり前の状況になれば、青森県の IT 業界は首都圏にも引けを取らないものとなっていくでしょう。



## ○ハッカソンも進化！

これまで実施してきたハッカソンですが、以前までの正式名称は「地域課題 IT ソリューション提案ワークショップ」でした。5回目となる昨年は、ついに「ハッカソン」を名乗りました。

ハッカソンは、人材育成の場として、また、他地域、他産業との交流の場として非常に意味のあるものとなり、参加者からも大変好評でした。

反面、ハッカソンから生まれたソリューションが一つもないという状況は、直ちにビジネスに結びついていないということも示しています。

そこで、今年のハッカソンは、よりビジネス向きにしていくために、プレイベントと連動！さらには、アマゾンウェブサービス、星野リゾート青森屋に協力をいただき、「青森観光アプリ開発コンテスト」と銘打ち開催いたします！

コンテストの会場となるのは青森県の魅力を凝縮した温泉宿、星野リゾート 青森屋。

参加者は、実際に青森屋に滞在して青森県の持つ様々な魅力を体感しながら、この場所の利用者の目線に立ってさらなる観光客の増加を目指し、オープンデータ化されている青森県の観光情報や各種コンテンツ、さらにはアマゾンウェブサービスを活用していただき、青森屋利用者をはじめ青森県の観光客、および県内観光関連事業者にご利用してもらうための IT サービスの創出を狙います。



また、参加チームに対してはフォローアップイベントも開催し、ビジネス化への道筋をつけていきます。

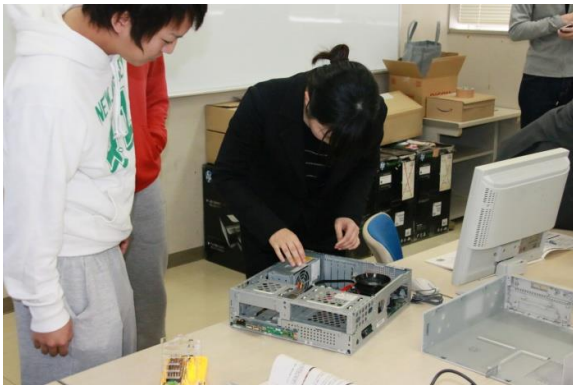
ハッカソン参加者のスキルアップだけではなく、ハッカソン自体が年々進化しています。

### Ⅲ そして、人材の育成・定着も

#### ○若手人材の育成

将来にわたって青森県の情報産業振興を考えたとき、担っていくべき人材は必要不可欠。そのためには、早い段階から、ITに興味を持ってもらい、ITを自分の生業（なりわい）としていくことを選択してもらう必要があります。

そこで、ITに興味を持ってもらうため、学生に対する開発体験イベントなどを実施する「スクール・キャラバン」、基礎的だが実践的なスキルを身につける「情報アカデミックサポート」をそれぞれ実施。スクール・



キャラバンに参加した学生から、「将来ITの仕事に就きたい。」と言ってもらえるなど、結果は上々。情報アカデミックサポートは、一定レベルのスキルを身につけることができるため、採用する側、採用される側相互にメリットがあります。

また、せっかくITに興味をもったり、スキルを身につけた人材が県内に定着するためには、青森がITで盛り上がっていく必要があります。各種イベントを通じて青森でITを生業にすることの面白さを伝えていきます。

#### ○全国へ、そして世界へ羽ばたく人材の育成を目指して

ビジネスとして継続的に成功するためには、顧客の満足度を上げることが必要です。ITにおける顧客の満足度の指針の一つに、リクエストどおりのものが納品されるということがあるのではないのでしょうか。つるしのスーツを販売するのとは異なり、顧客のニーズに合わせてアプリケーションを制作したりカスタマイズしなければならないIT業界にとって、相手の話をきちんと理解し、こちらの意図をきちんと伝えるということは非常に大事なことかと思えます。

それは、顧客に限らず、パートナー企業との間でも、同じ会社内の同僚との間でもそうでしょう。営業職に限らず、ITに携わる者誰もがプレゼンテーション能力が求められているといってもいいでしょう。

プレゼンテーションは場数を踏む、とくに大舞台での経験は大きな財産になります。そこで、若手IT技術者等の首都圏等でのプレゼンイベントへの参加を支援する「武者修行支援」を実施することにしました。さらに、武者修行に参加した人は、報告会で報告してもらうことにより、自分のみならず様々な人に効果が波及するようにしています。



## IV 青森県を IT ビジネスで盛り上げよう！

---

現在の事業は、それぞれが単独で意味を持つのではなく、お互いに関連しあうようにしています。

まずは、Facebook のイベントカレンダーを確認し、自分に関係のありそうなイベントに参加してみてください。

そして、そのイベントに関連するイベント、イベントで知り合った人の主催事業などに顔を出していけば、どんどん交流の輪が広がり、スキルもアップしていきます。

研究会でも、おなじみのメンバーに加え、新たな人がどんどん参画してきています。

徐々に広がりつつある IT ビジネスの輪。もっと広がるよう、これからも走っていきます。

【新時代 IT ビジネス研究会 Facebook ページ】

<https://www.facebook.com/ITkenkyukai.aomori>



【青森県 IT 関連イベントカレンダー】

[https://www.facebook.com/ITkenkyukai.aomori/app\\_208195102528120](https://www.facebook.com/ITkenkyukai.aomori/app_208195102528120)

